

科目名	ファミリー ガバナンス論特講	担当者	シナト 階戸 テルオ 照雄	期間	通年	単位数	4
-----	-------------------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	ファミリー企業研究は、従来あまり経営学の分野で採り上げられたことはなく、理論的な分析も少ない状況である。かかる中、多くの大企業（公開企業・非ファミリー企業）において、株主主権が唱えられる中、ファミリー企業の独自性に新たなスポット・ライトが、今日当てられている。本科目では、特にファミリー企業のガバナンスにつき、海外の豊富な具体的な企業ケース・スタディも交えて、考察してゆくことを目的とする。		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】</p> <p>問題発見・解決能力：事象を注意深く観察し、解決策を提案することができる。</p> <p>論理的・批判的思考力：得られる情報を基に、論理的な思考、批判的な思考ができる。</p> <p>豊かな知識・教養に基づく高い倫理観：豊かな知識を基に、倫理観を高めることができる。</p> <p>【行動目標（SB0s）】</p> <p>企業を巡るファミリーガバナンス論はもとより、諸理論や経営課題について把握し、その中で個別企業がとっている行動の背景を理解・概観できるようになることである。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>1つのレポート作成にあたり基本教材および参考文献の読み込みに25時間以上Manaba-Folioへの提出・再提出のやりとりに20時間以上を目安とする。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>manaba folioを利用して、教員と院生との間での双方向を重視した指導を実施する。</li> </ul> <p>【学修方略（LS）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>欧米のファミリー企業の現状につき、知識を得る。</li> <li>日本のファミリー企業と欧米のファミリー企業の経営課題の違いを理解する。</li> <li>公開企業（非ファミリー企業）のコーポレート・ガバナンス（企業統治）の問題点を理解する。</li> <li>ファミリー企業のガバナンスの問題点を理解する。</li> </ol>		
スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>何度かのレポートを交換することで、修士論文を書く際に必要となる基礎的な事項を修得することができる。そのためには、レポートを極力早い時期より提出することが望まれる。</li> <li>標準的なスケジュールとして、第1回目のレポートの草稿については、遅くとも最終提出期限1か月前を目安にすること。</li> </ol>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	教材内容を十分理解・修得し、レポートが作成されているかを基準とする。
	平常評価	20%	草稿段階から最終稿までのプロセスを含む取組みを評価基準とする。
履修者への要望	経営関連科目の基礎の理解が前提のため、経営関連科目との同時履修が好ましい。また、他のファミリービジネス関連科目の履修も望ましいのは言うまでもない。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： ファミリービジネス学会編，奥村昭博・加護野忠雄編著，階戸照雄他著 教材名： 『日本のファミリービジネス—その永続性を探る—』（中央経済社，2016年） ISBN:978-4-502-19011-7 2,400円+税
	前期はファミリー企業の現状と課題につき，理解を深めることに重点を置く。このため，データ・理論面だけではなく，実際のファミリー企業像が得られるよう，具体的な企業についての知識を得るよう努める。
参考図書	ジョン・A・デーヴィス他『オーナー経営の存続と継承』（流通科学大学出版，1999年） ISBN:978-4-94-774630-6 2,800円+税 全国社外取締役ネットワーク編著『〈社外取締役〉のすべて』（東洋経済新報社，2004年） ISBN:978-4-49-255514-9 1,800円+税
履修上のポイント	1. ファミリー企業の定義から，その実態までの数々のデータを基に，理解を深める。 2. 一般的な企業とファミリー企業の経営課題の違いを十分理解する。 3. 一般的な企業と比較して，ファミリー企業のガバナンスの問題点を考える。
レポート課題 1	ファミリー企業成功の条件を述べよ。 <b>留意点：</b> 1社以上の具体例を説明すること。
レポート課題 2	ファミリー企業における，コーポレート・ガバナンス（企業統治）の必要性につき，説明せよ。 <b>留意点：</b> 1社以上の具体例を含めること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： ランデル・カーロック，ジョン・ワード（訳者）階戸照雄 教材名： 『ファミリービジネス 最良の法則』（ファーストプレス社，2015年） ISBN:978-4-90-433681-6 3,800円+税
	後期は，前期で習得した知識をベースにして，基本教材（『ファミリービジネス 最良の法則』）で広範囲に扱われている，ファミリーガバナンスを中心に知識を深めていく。本書は優れた実務的な経験を踏まえた理論書であり，深い理解が望まれる。
参考図書	倉科敏材編著『オーナー企業の経営』（中央経済社，2008年） ISBN:978-4-50-266160-0 2,600円+税
履修上のポイント	1. 欧米のファミリー企業の現状につき，知識を得る。 2. 日本のファミリー企業と欧米のファミリー企業の経営課題の違いを理解する。 3. 公開企業（非ファミリー企業）のコーポレート・ガバナンス（企業統治）の問題点を理解する。 4. ファミリー企業のガバナンスの問題点を理解する。
レポート課題 1	ファミリーガバナンスとコーポレート・ガバナンスの違いにつき，説明せよ。 <b>留意点：</b> 1社以上の具体例を含めること。
レポート課題 2	ファミリーガバナンス実現のための条件を述べよ。 <b>留意点：</b> 1社以上の具体例を説明すること。